

第2章 各教科等における学習評価

6 (2) 中学校 音楽

観点別学習状況の評価を実施するに当たり、まずは年間の指導と評価の計画を確認することが重要である。学習指導要領（平成29年告示）解説 音楽編には「第2の各学年の内容の「A表現」の（1）、（2）及び（3）並びに「B鑑賞」の（1）の指導については、それぞれ特定の活動のみに偏らないようにするとともに、必要に応じて、〔共通事項〕を要として各領域や分野の関連を図るようにする。」とある。歌唱、器楽、創作、鑑賞について、それぞれ特定の活動に偏ることのないように配慮すること、また必要に応じて〔共通事項〕を要として、歌唱、器楽、創作、鑑賞の各学習の関連を図るように配慮することが示されている。よって、音楽は内容のまとまりがそのまま単元に移行することは少なく、どのような領域や分野と組合せて題材を構想していくのか考えていくことが重要な教科である。観点の趣旨を踏まえながら題材における評価規準を作成することが重要である。

ここでは、

題材名 「歌詞が表す情景や心情を思い浮かべ、曲想を味わいながら表現を工夫して歌おう」
第2学年
教材群 「荒城の月」（土井晩翠作詞／滝廉太郎作曲）「早春賦」（吉丸一昌作詞／中田章作曲）

について、評価例を示す。

① 題材の目標を作成する。

学習指導要領に示された教科の目標及び学年の目標を踏まえ、題材の目標を次のように設定する。

【中学校学習指導要領 第2章 第5節 音楽 第1 各学年の目標及び内容〔第2学年及び第3学年〕】

- (1) 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作の技能を身に付けるようにする。
- (2) 曲にふさわしい音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする
- (3) 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにし、音楽に親しんでいく態度を養う。

題材の目標

- (1) 「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付ける。
- (2) 「荒城の月」、「早春賦」のリズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したものと感受したものと関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫する。
- (3) 「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的、協働的に歌唱の学習活動に取り組むとともに、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

このように本題材において、扱う2教材を基に、(1)「知識・技能」の習得(2)「思考力・判断力・表現力等」の育成(3)「学びに向かう力、人間性等の涵養」について、どのような力を身に付けるのかを具体的に示す。また、次のように一文で表すことも考えられる。

「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、「早春賦」にふさわしい歌唱表現を創意工夫して歌い、我が国で長く歌われている歌曲に親しむ。

題材の評価規準を、次の(a)～(c)の手順で作成する。

(a) 当該学年の評価の観点と趣旨を確認する。

【第2学年及び第3学年の評価の観点とその趣旨】

知識・技能	思考・判断、表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。</p> <p>創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。</p>	<p>音楽を形づくっている要素や要素同士の間連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲にふさわしい音楽表現としてどのように表すかについて思いや意図をもったり、音楽を評価しながら良さや美しさを味わって聴いたりしている。</p>	<p>音や音楽、音楽文化に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

(b) 本題材で扱う学習指導要領の内容を明確にする。

【学習指導要領 第2学年及び第3学年 A表現 (1)歌唱】

ア 歌唱表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、曲にふさわしい歌唱表現を創意工夫すること。

イ 次の(ア)及び(イ)について理解すること。

(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり

ウ 次の(ア)及び(イ)の技能を身に付けること。

(ア) 創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能
〔共通事項〕

本題材において思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素は「リズム、速度、旋律、強弱」

このように、本題材をどのような指導事項(ア 「思考力、判断力、表現力等」に関する資質・能力 イ 「知識」に関する資質・能力 ウ 「技能」に関する資質・能力 〔共通事項〕)の組み合わせで構想するのかを考える。

(c) 本題材の評価規準を設定する。

題材の評価規準作成のポイントは以下のとおりである。

(1) 知識・技能

- ・「知識」については、観点の趣旨を「～について理解している。」と示しているため、そのまま評価規準として設定することができる。具体的には、「～」の部分に、その題材の領域や分野、学習内容に応じて事項イの(ア)、(イ)、(ウ)から一つ以上適切に選択して置き換える。
- ・「技能」については、技能を身に付けて表現している状態を評価することになるため、観点の趣旨を「創意工夫を生かした表現をするために必要な技能を身に付け、～で表している。」と示し、その文言を用いて評価規準を設定する。具体的には、「創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能」の部分で、その題材の分野や学習内容等に応じた事項ウに置き換える。歌唱、器楽については、事項ウの(ア)、(イ)のいずれかまたは両方を適切に選択して置き換える。また、「～」の部分に、「A表現」においてあつかう分野に応じて、「歌唱」、「器楽」、「創作」から選択して置き換える。なお、「B鑑賞」の題材においては設定しない。

(2) 思考、判断、表現

- ・「思考・判断・表現」については、観点の趣旨を①〔共通事項〕アに関すること、②「A表現」に関すること、③「B鑑賞」に関することで構成し、「～している。」と示している。したがって、「A表現」の学習では①と②で構成することによって評価規準を設定することができる。なお、②については、創意工夫している状態を評価することになるため、観点の趣旨を「どのように表すかについて思いや意図をもっている」と示し、その文言を用いて評価規準を設定する。また、「B鑑賞」の学習では、①と③で構成することによって評価規準を設定することができる。なお、①については、その文末を「考えるとともに、」とし、③については、観点の趣旨の「音楽を（自分なりに）評価しながら」の部分に、その題材の学習内容等に応じて事項のアの（ア）、（イ）、（ウ）から一つ以上を適切に選択して置き換える。
- ・「音楽を形づくっている要素」の部分は、音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して置き換える。

(3) 主体的に学習に取り組む態度

- ・「主体的に学習に取り組む態度」については、観点の趣旨を「～取り組もうとしている」と示しているため、そのまま評価規準として設定することができる。
- ・文頭に、「〇〇に関心をもち」を加え、その題材の学習において生徒に関心を持たせたい事柄を記載する。

(a) (b) と作成のポイントを基に、本題材の評価規準を次のように設定した。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>知 「荒城の月」、「早春賦」の曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解している。 (＊1) (＊2)</p> <p>技 創意工夫を生かした表現で「早春賦」を歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表現している。(＊1)</p>	<p>思 「荒城の月」、「早春賦」の <u>リズム、速度、旋律、強弱(＊3)</u> を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じしながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、「早春賦」にふさわしい歌唱表現についてどのように表すかについて思いや意図をもっている。</p>	<p>態 「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や <u>心情及び曲の表情や味わいに関心をもち</u>、(＊4) 音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>

＊1 「知識」と「技能」は、それぞれ分けて指導事項を示していること、また評価方法や評価場面が異なることが想定されること等を踏まえ、**知**、**技**と分けて示す。

＊2 事項に示している内容のうち、本題材で扱わない部分については削除できる。

例えば「イ 知識」の「(ア) 曲想と音楽の構造や歌詞の内容及び曲の背景との関わり」のうち「及び曲の背景」については扱わないため、削除する。

＊3 「音楽を形づくっている要素」については、中学校学習指導要領第5節音楽の「第3 指導計画の作成と内容の取扱い」の2 (9) に示した「音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など」の中から、その題材の学習において生徒の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素を適切に選択して記載する。

＊4 文頭に、その題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意志をもったりできるようにするために必要な、扱う教材曲や曲種等の特徴、学習内容など、生徒に興味・関心を持たせたい事柄を記載する。

③ 指導と評価の計画を作成する

<>内は評価方法

時	◆ねらい ○学習内容	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
1	<p>◆「荒城の月」、「早春賦」の歌詞が表す情景や心情及び曲の表情や味わいなどに関心をもつ。</p> <p>○「荒城の月」、「早春賦」の歌詞の内容や曲想に関心をもつ。</p> <p>○「荒城の月」、「早春賦」の音楽の特徴の相違点などに気付く。</p>			
2	<p>◆「荒城の月」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じるとともに、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。</p> <p>○「荒城の月」の音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じする。</p> <p>○「荒城の月」について知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、音楽の特徴と歌詞の内容とを関わらせて歌う。</p> <p>○前時の学習を想起して「早春賦」を歌う。</p>			
3	<p>◆「荒城の月」と対比しながら、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながり方、フレーズ）、強弱などの特徴を捉え、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解するとともに、音楽表現を創意工夫する。</p> <p>○「早春賦」の歌詞が表す情景や心情を想像して歌う。</p> <p>○「荒城の月」と対比するなどして、「早春賦」のリズム（拍子）、速度、旋律（音のつながりやフレーズ）、強弱を知覚・感受し、「早春賦」の曲想や歌詞の内容を味わい、音楽の構造との関わりを踏まえて曲にふさわしい音楽表現を追求する。</p>	<p>知 曲想と音楽の構造等との関わり の理解 《ワークシート》* 1</p>	<p>思 音楽を形づくっている要素の知覚・感受に基づく歌唱表現の創意工夫 《観察》《ワークシート》* 2</p>	
4	<p>◆創意工夫を生かして「早春賦」を歌う。</p> <p>○創意工夫を生かした表現をするための歌い方を追求する。</p> <p>○思いや意図をもって「早春賦」を歌う。</p> <p>○題材における学習を振り返る。</p>	<p>技 創意工夫を生かして歌う技能 * 1 《演奏（歌唱）》</p>		<p>鑑 学習活動に対する主体的・協働的な取組《観察》《ワークシート》* 3</p>

* 1 「知識」に関する評価規準 **知** を第3時に位置付け、曲想と音楽の構造等との関わりについての理解の状況の評価すること、「技能」に関する評価規準 **技** を第4時に位置付けて、創意工夫を

生かした表現で歌うために必要な技能の習得状況を評価することとした。

- * 2 「思考・判断・表現」の評価規準（**思**）を第3時に位置付けて、第2時から第3時までの音楽を形づくっている要素の知覚・感受、また知覚したことと感受したこととの関わりについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況を評価することとした。
- * 3 「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準（**態**）を第4時に位置付けて、第1時から第4時までの、本題材の学習活動への取組の状況について総括的に評価することとした。「主体的に学習に取り組む態度」については、本題材の学習内容等に関心をもてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、また、本題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について継続的に評価し、適切な場面で総括的に評価することが求められる。
- * 4 実際の学習活動にあたってはこれら三つの観点に係る資質・能力は深く関わり合っている。例えば、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについての理解は、第1時、第2時の学習が基盤となっている。また、そこでは〔共通事項〕アに相当する思考力、判断力、表現力等がその支えとなっている。したがって教師は、生徒の状況を常に把握しながら授業を進め、様々な状況に応じた工夫のある指導を行い、生徒一人一人にとって学習が充実するように努めることが大切である。

④ 実際の指導及び評価

本事例において、「思考・判断・表現」の観点について「おおむね満足できる」状況（B）と判断するポイントと「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒への働きかけについて一つ例を示す。

思考・判断・表現	思	<評価方法> 「おおむね満足している」状況（B）と判断するポイント
		<観察> 「早春賦」にふさわしい音楽表現を追求する場面において、どのように工夫して歌いたいかについて発言したり歌い表そうとしたりしているか。
		<ワークシートⅢ> 感じ取ったことや音楽の特徴などに触れながら、どのように歌いたいかについて、自分なりの思いや意図を書いているか。
		<評価方法> 「努力を要する」状況（C）と判断されそうな生徒へ働きかけ
		「荒城の月」と「早春賦」の雰囲気の違いなどを基に、生徒とともに、「早春賦」を速度やブレスの一を変えて歌うなどしながら、「早春賦」から感じ取った雰囲気にふさわしい表現について対話し、思いや意図がもてるよう促す。

⑤ 観点ごとに評価を総括する

《知識・技能》

音楽科では、指導事項において知識と技能とを分けて示しているため、それぞれの評価結果を総括して「知識・技能」の評価をすることが基本となる。この場合、題材単位では、その学習内容等によって知識と技能に軽重を付けることも考えられるが、その際は一方に著しく偏ることがないようにすること、また年間を通じて知識と技能がバランスよく育成されることなどに留意する。

《思考・判断・表現》

本事例では、一つの評価規準を設定しているため、その評価が総括の評価結果となる。

《主体的に学習に取り組む態度》

本事例では、一つの評価規準を設定しているため、その評価が総括の評価結果となる。題材によっては、一題材において、二つ以上の評価規準が設定される場合もあり得るが、「主体的に学習に取り組む態度」はその題材の学習に粘り強く取り組んだりその題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んだりしているかを評価するものであり、題材の学習過程において、粘り強さや自己の学習の調整等に課題が見られた場合には、教師が適切に指導を講じる必要があるため、二つの場合は二つ目、三つの場合は三つ目で評価を総括することが考えられる。

<参考資料>

【案】「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料（小学校、中学校）（国立教育政策研究所）